

平成 30 年度第三者評価

評価結果報告書

【明晴プレスクールめだか】

平成 31 年 3 月

評価機関：株式会社 にほんの福祉ネット

評点基準

事業評価では、以下の評点等により各評価項目を評価します。評点では表現しきれない貴事業所の実態やサービスの質については、講評に記載します。利用者調査には、評点はつきません。

評点基準 <カテゴリー1～6>	
<p> 評点は、標準項目の実施状況を以下のルールに基づき、記号化したもので、評価項目ごとにつける。 1 標準項目の実施が確認できた場合は○、未実施・確認不可の場合は●で表す 2 ○及び●が混在する場合は、標準項目の順番にかかわらず、左端から○を配列し、●は右端に寄せて表す。 3 「非該当」が選択された標準項目は、評点の構成要素から除く </p>	
標準項目の定義	<p> 東京都内の福祉サービス事業者が、福祉サービスの質の向上を図る観点から、標準的に実施していることが必要であると認められる事項、または、実施するための仕組み（取り組み）があることが必要であると認められる事項をいう。 </p>
確認方法	<p> 標準項目を確認したものとするができるのは、次のすべてを満たした場合とする。 ア 事業者が当該事項を実施していること イ その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること ウ その根拠が示せること </p>

評点基準<カテゴリー7>	
<p> ※「カテゴリー7」は、「標準の評価」のみ対象です。「利用者調査とサービス項目を中心とした評価」には含まれません。 </p>	
<p> 「目標の設定と取り組み」「取り組みと検証」「検証結果の反映」については、確認できた内容（それぞれ一つ）が●で表されます。 </p>	
確認方法	<p> 事業者がそれぞれの重要課題について前年度に具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証した上で、今年度以降の目標設定や取り組みに反映しているかどうかの確認とする。 </p>

目標の設定と取り組み	<p> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった </p>
取り組みの検証	<p> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である </p>
検証結果の反映	<p> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である </p>

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>基本方針 ①ろう児の母語環境を提供します ②ろう児の家族に日本手話とろう文化の情報を提供し子育てを支援します ③日本手話ネイティブのろう者とう児を育てた経験のある聴親を育成します ④ろうコミュニティとの連携を強化します</p>
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	<p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>ろう者職員→日本手話ネイティブ。パイリンガル・バイカルチュラルろう教育の必要性を自ら当事者モデルとしての役割を持っていること。聴者職員→ろう児を日本手話で育てた経験をもつ保護者。</p>
	<p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>聞こえにくいお子さんに良質の手話環境を提供することを第一に、子どもの特徴を正しく理解して、赤ちゃんがもって生まれた力を最大限に伸ばす。ろう者職員は言語的・文化的モデル 聴者職員は保護者支援を担当。</p>

調査対象

全18世帯。

調査方法

アンケート調査票の配付は事業所を通じて手渡し、回収は、評価機関に対する直接の郵送とした。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

19

18

18

13

72.2

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>

「満足」の回答が100%という結果が示された。

<調査結果の講評について>

- ・質問における各回答の割合については、無回答は除いた。
- ・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				

4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	12	1	0	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
8. 職員の接遇・態度は適切か	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				

11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
12. 子どものプライバシーは守られているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				
16. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	13	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	<input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	<input type="radio"/> 非該当
	カテゴリー1の講評		
	事業化以前から現在に至るまで、一貫して理念を実践している 耳の聞こえない子ども、聞こえにくい子どもに対し、手話と日本語の二つの言語により教育を行う私立ろう学校(特別支援学校)の経験と専門性を活かして、乳児に対する発達支援を行ってきた。そして、事業化への準備期間を経て、平成29年度より、児童福祉法上の児童発達支援事業所として再スタートを切った。事業化以前から現在に至るまで一貫して、母語としての日本手話の獲得と健やかな育ちを支援し、また、子育てを行う保護者への助言などの支援を行ってきた。こうした取り組みを通して、理念を実践している。 当事者モデルとして運営をリードしている 母体である学校では、ろう者によって育まれてきた言語(日本手話)と文化(ろう文化)、聴者によって育まれてきた言語(日本語)と文化(聴文化)、それぞれに対する理解と尊重を教育の根底に据えている。当事業所においても、管理者や児童発達支援管理責任者などの経営層に属する職員は、自らが当事者モデルとして二言語・二文化を理解・尊重し、その姿を示していくことで、事業運営をリードしている。		

2			カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリー1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6	
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(○○○○○○)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			○ 非該当

サブカテゴリ2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 0/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点(●●●)		
評価	標準項目	
○ あり ● なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
○ あり ● なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当
○ あり ● なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(●●)		
評価	標準項目	
○ あり ● なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
○ あり ● なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリ2の講評 広くニーズを収集し、運営に活かしたり、今後の参考としたりしている 半期ごとに行う個別支援計画の見直しに際して、また、日常的な相談への対応を通して、保護者のニーズを把握している。また、法人理事、管理者、児童発達管理責任者などとの円滑なコミュニケーションや管理者との面談により、職員の意向を把握している。地域福祉の現状やニーズについては、関東地区のろう教育機関におけるアンケート集計結果などの資料や研究・教育機関での会合などを通して把握している。こうした把握したニーズをもとに、今後の事業運営に関する課題を整理・分析している。 今後の見通しに立った上で運営と支援の実践を積み重ねている 耳の聞こえない子ども、聞こえにくい子どもに対し、手話と日本語の二つの言語により教育を行う私立ろう学校(特別支援学校)の無償の乳児クラスとして活動してきた。これまで培ってきた経験と専門性を活かして、事業化への準備を重ねてきた。そして、平成29年度より、児童福祉法上の児童発達支援事業所として再スタートを切った。以後、今後の見通しに立った上で、支援のあり方やプログラムの内容を検討し、決定したスケジュールに基づいて支援を提供している。		

3				カテゴリ-3	
経営における社会的責任					
サブカテゴリ-1(3-1)					
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる				サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)					
評価		標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-2(3-2)					
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている				サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)					
評価		標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)					
評価		標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		<input type="radio"/> 非該当	

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <div>5 / 5</div>
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる <div>評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <div>評点(〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー3の講評		
<p>教育・研究・福祉の各分野に対する貢献を行っている</p> <p>併設のろう学校(中学部)の生徒の職場体験や、児童発達支援や放課後等デイサービスなどの各事業所職員の研修、学術研究者や教師などによる見学の受け入れを行っている。こうした取り組みは、機能や専門性を活かした学びの場の提供であり、長期的に見た場合は人材育成であり、教育・研究・福祉の各分野に対する貢献でもある。</p> <p>これまでに培ってきた経験を教育・研究に活かしている</p> <p>日本手話を母語とするろう児の乳児期における言語発達の過程を明らかにし、ろう教育の発展・充実に資することを目的とした研究に継続的に協力している。今年度は、乳児の母語獲得のデータを収集し、次年度における分析に備えている。これまでに培ってきた経験が教育・研究に活かされるという事実は、子どもの成長に職員が真摯に向き合ってきた成果であり、また、子ども自身が成長していく姿を通して大人に学びの機会を提供してくれたという面も併せ持つ。</p>		

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点(○○○●●)</div>		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
	○ あり ● なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当
	○ あり ● なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当	
サブカテゴリー2(4-2)			
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている <div style="text-align: right;">評点(○○○○)</div>			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当	
カテゴリー4の講評			
危機管理の分野における対応上の留意事項と手順を明確化している 異常事態・事故発停時対応マニュアルでは、備えるべき事態について、分類と定義、心得と対応方法を定めている。また、不審者が侵入した時の対応方法についても、同様に明確化している。さらに、火災に際しては、ライトとモニターにより音と視覚の両面から状況の把握と警告を行える体制を整えている。壁に備え付けられた鏡も、子どもや職員の視野を広げ、危険察知やコミュニケーションを図ることができる仕掛けとなっている。事業所の特性を踏まえた独自の工夫がある。			
紙と電子の両媒体の記録に応じた管理を行っている 支援に必要な情報は、事務所内で適切に管理している。紙媒体での記録類は、鍵のかかる書棚に保管している。電子媒体の記録類は、パソコン内で管理し、情報へのアクセスにはパスワードにより権限を設定することで閲覧できる人的範囲を限定している。			

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている				
評点(○○)				
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している				
評点(○○)				
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる				
評点(○○●●)				
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○ 非該当
○ あり ◎ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○ 非該当
○ あり ◎ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる				
評点(○○○○)				
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○ 非該当

サブカテゴリ2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ5の講評

育成の方法を検討していく方針である

事業化以前からともに運営・支援を行ってきた職員集団として、常に共通認識を持って進んできた。特に経営層に属する職員は、当事業所の運営・支援の要としての役割を果たしている。確固たる理念や高度な専門性に基づく発達支援・保護者支援の継続には、こうした「要」の役割を果たしていく次世代の職員の育成が不可欠となる。個別の育成計画の導入も含め、どのような方法で育成を図っていくか、検討していく方針である。

相談しやすい環境を活かしたフォローを行っている

事業化以前からの核となるメンバーを中心に、職員に対するフォローを行っている。面談の際は、現在の状況や配置・担当業務に対する本人の意見を聞き取っている。コミュニケーションは密で、母体となる学校(明晴学園)の幼稚部職員を含めて、何かあれば相談できる環境にあり、会議などでも率直な意見交換を行っている。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)		
<p>耳の聞こえない子ども、聞こえにくい子どもに対し、手話と日本語の二つの言語により教育を行う私立ろう学校(特別支援学校)の経験と専門性を活かして、乳児に対する発達支援を行ってきた。そして、事業化への準備期間を経て、平成29年度より、児童福祉法上の児童発達支援事業所として再スタートを切った。</p>		
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評		
<p>法内事業化にともない、これまで以上に発達支援や保護者支援において専門性を発揮し、質の高い支援を展開している。利用登録者数も増加し、また、活動の方針や内容に対する保護者の理解や信頼も高まっている。</p>		

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

ろう児の日本手話の発達に関する研究プロジェクトに継続的に参画している。これまでに培ってきた経験をテーマに沿って整理し、教育・研究に還元している。

**目標の設定と
取り組み**

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

支援の現場と学術研究の場との連携・協力は、支援過程の理解や支援に携わる職員の育成にも資するものである。30年度は、乳児の母語獲得のデータを収集することとし、31年度における分析に備えている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		
<div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</div>		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の実望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>ホームページにより、保護者の疑問や不安に応えうる事業所の姿勢を発信している</p> <p>ホームページでは、「赤ちゃんが聞こえにくいことがわかったら、知ることから始めよう」とした上で、まずは保護者がひとりで悩まず、当事業所が相談相手となる姿勢を明確にしている。また、「ろう児」を、手話を用いる「目の子ども」として捉え、言語(日本手話)の獲得に向けた支援を行う事業所として行っている事業内容や活動報告などを発信している。そして、考えられる保護者の疑問や不安を踏まえた上で、当事業所としての方針や姿勢について、Q&A方式で説明している。</p> <p>情報提供、見学・体験の機会の提供を通して、相談対応の姿勢を一貫している</p> <p>パンフレットでは、事業所でのプログラムと一日の流れについて図を用いてわかりやすく案内している。ホームページの内容と合わせ、単なる事業所情報を越えた、「ろう児」「ろう文化」に対する理解を促す内容となっている。こうした、受け手の立場に立った情報提供に加え、まずは直接触れてみることを勧め、相談・見学・体験を随時受け付けている。活動の見学や体験の際には、保護者が抱える育児の不安や心配ごとを受け止め、助言や情報提供を行い、それらの軽減・緩和を図っている。</p>	

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>			
評価		標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</div>			
評価		標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
見学→受給者証の受領→契約という一連の過程を経て利用開始につなげている 利用契約に至る前に見学の機会を設定し、子どもの状況や家庭での様子について聞き取りを行っている。実際の雰囲気や活動の様子に触れもらいながら、活動方針について説明を行っている。そして、利用を希望する場合は、自治体による受給者証の発行・交付を経て、利用契約に至っている。契約書・重要事項説明書に基づく説明を行う際は、必要に応じて手話通訳者を手配するほか、十分な時間をかけて丁寧に説明している。 子どもにとって安心できる環境を整えている 利用開始直後は、特に安全面に配慮し、0歳児の場合は0歳児の利用が多い日の利用を勧めている。手話の環境は、子どもにとって「見て分かる言葉がここにある」ということであり、「自分の居場所を見つけた」という安心感がある。子どもの存在を自然に捉えられる場所として、保護者とともに安心して遊び、職員や他の子どもとのかかわりを作っている。			

サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 11/11
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当
サブカテゴリー3の講評		
子ども一人ひとりの状況を踏まえた課題の整理を行っている 面談の際には、子どもの様子、相談内容、保護者の希望、個別指導、他機関の利用や連携などの状況について確認・記録している。子どもの様子については、家庭での様子に加え、児童発達管理責任者の所見を添えている。そして、言語・コミュニケーション、対人・社会性、興味・関心、行動・情緒、運動(粗大運動、手の操作)、ADL(食事、衣服の着脱、排泄)などにおける子どもの状況を確認している。その上で、発達支援・家庭支援の二つに視点から、必要な支援内容の決定に先立つ課題の整理を行っている。		
課題へのアプローチを具体化した支援計画を作成している 子ども一人ひとりの状況から導き出して整理した課題を踏まえ、療育に対する保護者の希望、総合的な支援方針、到達目標(長期・短期)、具体的な支援内容(発達支援・保護者支援)などからなる個別支援計画を作成している。保護者に対する説明と同意を経て確定した計画に基づいて支援を行い、6か月ごとに改めて保護者との面談や支援に対する評価、今後の課題の明確化を行い、計画の見直しにつなげている。		

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>日常の各場面においてプライバシーに配慮している</p> <p>利用開始時(契約時)には、個人情報の取り扱いについて説明した上で、利用の目的・範囲に対する保護者の意思(同意)を確認した上で、適正な利用を行っている。日常の支援の中での羞恥心への配慮としては、子どもの失敗へのさりげない対応のほか、子ども自身の自覚が芽生えるように経験を積み重ねている。</p>			

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>		
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <div style="text-align: right;"><input type="radio"/> 非該当</div>	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている <div style="text-align: right;"><input type="radio"/> 非該当</div>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <div style="text-align: right;"><input type="radio"/> 非該当</div>		
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <div style="text-align: right;"><input type="radio"/> 非該当</div>	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている <div style="text-align: right;"><input type="radio"/> 非該当</div>	
サブカテゴリー6の講評			
	特に危機管理の分野における対応手順を明確化している 業務を円滑に進めていく上で必要な見通しを示すものとして、業務分担表やタイムスケジュールを作成している。これらを共有し、業務を進めていく中で随時見直しを行っている。また、特に危機管理の分野における対応上の留意事項と手順を明確化している。異常事態・事故発生時対応マニュアルでは、備えるべき事態について、分類と定義、心得と対応方法を定めている。また、不審者が侵入した時の対応方法についても、同様に明確化している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 18/18
1 評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている <div style="text-align: right;"><input type="radio"/> 非該当</div>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している <div style="text-align: right;"><input type="radio"/> 非該当</div>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている <div style="text-align: right;"><input type="radio"/> 非該当</div>
評価項目1の講評	
<p>個別の計画に基づき、プログラムを工夫しながら、支援を展開している</p> <p>言語・コミュニケーション、対人・社会性、興味・関心、行動・情緒、運動、日常生活動作などにおける課題を踏まえ、総合的な支援方針、到達目標(長期・短期)、具体的な支援内容(発達支援・保護者支援)などからなる個別支援計画を作成している。この計画に基づき、コミュニケーションや言語、生活などの視点から様々なプログラムを設定し、個別の指導や集団指導を実施している。</p> <p>子どもと向き合うことを徹底している</p> <p>「目を合わせる」ことをコミュニケーションの始まりと捉えている。そこで、子どもと向き合い、手話を覚える前に、まずは見せて伝えている。そこから、眉の動きや目の見開き、うなずきなどの、子どもが発話しやすい言葉や指さしを捉え、気持ちに共感し、言葉を添えていくことで、言葉の発達を支援している。そして、個別でのかかわりや集団の中での経験を通して、言葉のインプットを増やし、自分で話せる言語を持つことを支援している。</p>	

2	評価項目2		この評価項目は入力できません	
	【食事の支援がある事業所のみ】子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている			
	評点()・非該当6			
	評価	標準項目		
	○ あり ○ なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	● 非該当	
	○ あり ○ なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	● 非該当	
	○ あり ○ なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	● 非該当	
	○ あり ○ なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	● 非該当	
○ あり ○ なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	● 非該当		
○ あり ○ なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	● 非該当		
	評価項目2の講評		この評価項目は入力できません	

3	評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている			評点(〇〇〇〇)・非該当1
	評価	標準項目		
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している		<input type="radio"/> 非該当
	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている		<input checked="" type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評				
<p>年齢・発達に応じて「自分でできる」力を育んでいる</p> <p>食事、排泄、衣服の着脱など、年齢・発達に応じて「自分でできる」力を育んでいけるように支援している。手伝いながらともに行う、手本を見せる、自分でできる部分はやってみる、といった経験を積み重ね、意欲を大切にし、出来ることの広がりを支援している。プログラムの準備や使用した玩具などの片づけも、出来る部分はともに行っている。</p> <p>他者とのかかわりの中で、健やかな育ちを援助している</p> <p>「療育」を『「目の子ども」にとっての乳児保育』と捉え、子どもにとって受け入れやすい様々な手話文法を用いて言葉かけを行い、同じものや同じ方向に意識や視線を向けられるようにかかわり、表現したい思いに言葉を添えて共感したりすることを基本としている。その上で、玩具や道具、その他の素材などを活用しながら、感触や色、大きさの違いや、共に遊ぶ経験を通して気持ちが伝わる心地よさ、相手の気持ちの動き、遊び方の工夫、楽しんだ経験を共有する会話など他者とのかかわりの中で、健やかな育ちがある。</p>				
4	評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評				
<p>家庭やかかりつけ医、学校の保健室と連携して健康管理を支援している</p> <p>利用開始前の段階で、かかりつけの医療機関の情報を確認している。日々の体調に関しては、登園時には健康状態を確認し、欠席時にもどのような状況なのかを確認している。これらにより、事業所と家庭での子どもの様子を保護者と共有し、子どもの健康の維持に活かしている。感染症の発生などの際には、本人の回復と他の子どもの健康の維持のため、一定期間を経て通所を再開することとしている。また、必要に応じて、明晴学園の保健室のバックアップを受けられる体制にある。</p>				

5	評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている			評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている			<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している			<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目5の講評					
<p> 子ども自身の経験の積み重ねが経験の広がりにつながっている 日常の各場面において、子どもが主体的にかかわることが出来るよう、経験を積み重ねている。遊びや活動は子どもにとって生活そのものであり、遊びの中での経験を通して、色や感触、大きさの違いなどに気づき、遊び方を発見し、他の子どもと楽しみや喜びを共有し、言葉の広がりや豊かな感情、かかわりの広がりがそれぞれ有機的につながり合って発展している。 </p> <p> 思い思いの遊びや活動を楽しむことが出来る環境を整えている 室内は仕切りやマット、たたみなどを活用して、静的・動的それぞれの活動を行いうる空間を整え、思い思いの遊びや活動に集中したり、遊びを介して子ども同士のかかわりを広げたりする機会を保障している。壁に備え付けられた鏡も、子どもや職員の視野を広げ、危険察知やコミュニケーションを図ることができる仕掛けとなっている。 </p>					

6	評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている			評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている			<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている			<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている			<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目6の講評					
<p>子どもの育ちを保護者と共有している</p> <p>活動の終了時に、その日の子どもの様子を保護者に伝え、子どもの育ちを保護者と共有するとともに、家庭でのかかわり方について助言している。個別の面談では、家庭での子どもの様子を聞かせてもらい、事業所と家庭で連携をとって子どもの育ちを支えていけるようにしている。こうしたかかわりを通して把握した保護者のニーズを踏まえ、例えば、絵本語りの様子を撮影した動画を配信するなどの取り組みも行っている。</p> <p>発達支援と同様に、保護者支援を重視している</p> <p>発達支援と保護者支援を両輪としている。子育てに役立つ助言や情報提供、日本手話の学びの機会の提供などにより、親子の間でのコミュニケーションを支援している(ミニ勉強会)。子どもに伝わりやすい方法をともに考える、声かけのヒントを助言するといった支援が、保護者による子どもの理解につながり、それがまた子どもからの積極的な発信につながるなど、親子のかかわりの充実につながっている。また、幼稚部、小学部、中学部の子どもや卒業生の保護者の姿に触れられることは、成長の見通しを持て、また、自分自身の自信や活力、目標ともなる。</p>					
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)	
	評価	標準項目			
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している			<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている			<input type="radio"/> 非該当
	評価項目7の講評				
<p>幼稚部、小学部、中学部の子どもとの交流の機会がある</p> <p>利用者(子ども・保護者)にとって役立つ可能性のある情報は、事業所内に掲示・配布したり、個別に案内したりしている。子どもと他者とのかかわりという面では、母体となるろう学校(特別支援学校)と敷地を同じくする利点を活かし、幼稚部、小学部、中学部の子どもとの交流の機会を持っている。異なる年齢の子どもの存在は、めだかの乳児によっては「お兄さん」「お姉さん」にかわいがってもらい、世話してもらう心地よさを味わうことが出来る機会であり、また、「大きくなるとこんなことが出来る」と期待を抱くことも出来る機会である。</p>					

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている
タイトル①	安心できる環境を整えている	
内容①	当事業所の手話の環境は、子どもが示す表情を見逃さず、思いをつかみ、必要なかわりにつなげていくものである。従って、子どもにとって「分かってもらえる」「通じ合える」「見て分かる言葉がここにある」ということであり、「自分の居場所を見つけた」という安心感がある。こうした安心感は、そのまま情緒の安定にもつながるものである。信頼・安心できる環境の中で、言語（日本手話）の広がりを通した内面の豊かな育ちがある。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	家族との交流・連携を図り支援を行っている
タイトル②	保護者に対する支援が親子のかかわりの充実につながっている	
内容②	保護者に困りごとがあれば随時相談にのり、助言を行っている。また、ミニ勉強会を開催し、子育てに役立つ助言や情報提供、日本手話の学びの機会の提供などにより、親子の間でのコミュニケーションを支援している。そのほか、毎月行う「手話リズム」については、スマートフォンでも見られるよう動画で配信している。子どもに伝わりやすい方法をともに考える、声かけのヒントを助言するといった支援が、保護者による子どもの理解につながり、それがまた子どもからの積極的な発信につながるなど、親子のかかわりの充実につながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル③	安全な施設環境の維持のための工夫がある	
内容③	特に危機管理の分野における対応上の留意事項と手順を明確化している。異常事態・事故発生時対応マニュアルでは、備えるべき事態について、分類と定義、心得と対応方法を定めている。また、不審者が侵入した時の対応方法についても、同様に明確化している。さらに、火災に際しては、ライトとモニターにより音と視覚の両面から状況の把握と警告を行える体制を整えている。壁に備え付けられた鏡も、子どもや職員の視界が広がり、危険察知やコミュニケーションを図ることができる仕掛けとなっている。事業所の特性を踏まえた独自の工夫がある。	

No. 特に良いと思う点	
1	タイトル 確固たる理念に基づく運営・支援を実践している
	内容 耳の聞こえない子ども、聞こえにくい子どもに対し、手話と日本語の二つの言語により教育を行う私立ろう学校（特別支援学校）の経験と専門性を活かして、乳児に対する発達支援を行ってきた。そして、児童福祉法上の児童発達支援事業所として再スタートを切った。事業化以前から現在に至るまで一貫して、母語としての日本手話の獲得と健やかな育ちを支援し、また、子育てを行う保護者への助言などの支援を行ってきた。こうした一貫した取り組みを通して、組織内で理念を共有し、支援の根底に据えている。
2	タイトル もって生まれた「生き方」を尊重し、「生きる力」の育ちを支援している
	内容 ろう者によって育まれてきた言語（日本手話）と文化（ろう文化）、聴者によって育まれてきた言語（日本語）と文化（聴文化）、それぞれに対する理解と尊重を支援の根底に据えている。言語の獲得とは、文化の獲得であり、成長に必要な環境の獲得でもある。この姿勢の中核には、子どもがもって生まれた「生き方」の尊重がある。そして、言語の世界の広がり、子どもと他者・外界とのかかわりや内面の充実にもつながる。子どもの特性に対する肯定的な視点に基づく母語環境の保障を通じて、一人ひとりが「生きる力」を育んでいけるよう支援している。
3	タイトル 子どもを中心にすえて、家庭と連携を図り、適切な言語環境を保障している
	内容 母語（日本手話）の獲得が先にあることで、その後の言語（日本語）の理解・吸収が円滑に進む。こうした母語の重要性を踏まえると、幼いうちから言語環境を整えていく必要がある。そこで、家庭においても適切な言語環境が保障されるよう保護者に対する支援を行っている。ミニ勉強会により子どもの特徴の理解や子育てに役立つ助言・情報提供を行ったり、日本手話の学びの機会を提供したりすることで、親子の豊かなコミュニケーションを支援している。事業所と家庭の双方で子どもにとって望ましい言語環境を整え、子どもの成長を支援している。
No. さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル 当たり前のこととして行っていることを意義付けていく
	内容 併設のろう学校（中学部）の学生の職場体験や、児童発達支援や放課後等デイサービスなどの各事業所職員の研修、学術研究者や教師などによる見学の受け入れを行っている。こうした取り組みは、機能や専門性を活かした学びの場の提供であり、長期的に見た場合は人材育成であり、教育・研究・福祉の各分野に対する貢献でもある。こうした「果たしている役割」を改めて認識し、今後の活力につなげていくことを課題としている。
2	タイトル 事業の安定的な継続のため、次世代の職員の育成のあり方を検討していく
	内容 事業化以前からともに運営・支援を行ってきた職員集団として、常に共通認識を持って進んできた。特に運営法人の理事や管理者、児童発達支援管理責任者などの経営層に属する職員は、当事業所の運営・支援の要としての役割を果たしている。確固たる理念や高度な専門性に基づく発達支援・保護者支援の継続には、こうした「要」の役割を果たしていく次世代の職員の育成が不可欠となる。どのような方法で育成を図っていくか、検討していくことを課題としている。
3	タイトル 今後も理念や方針を継続的に発信していく
	内容 母語の獲得を支援することで、その後の言語の理解・吸収のための土台の構築を支援している。つまり、「母語としての日本手話」をアイデンティティの不可欠の要素と捉えた上で、ろう者と聴者のそれぞれによって育まれてきた言語と文化に対する理解と尊重を基本方針としている。こうした例は全国にもごく少数の例しかない。支援を必要とする人に当事業所の存在が伝わることは、利用するサービスを選択・決定する際の検討をより豊かなものにしうる。今後も引き続き、当事業所の理念や方針を大切に、継続的に発信していくことを課題としている。